

2019年3月期決算説明会

2019年 5月 16日
日本アビオニクス株式会社



目次

- 1 . 2019年3月期決算
- 2 . 2020年3月期通期業績予想
- 3 . 中期経営計画の進捗状況

会社概要

商号	日本アビオニクス株式会社 Nippon Avionics Co., Ltd.
設立	1960（昭和35年）年 4月 NECと米国ヒューズエアクラフト社との合併 会社として発足
株主	NEC 50.26% その他 49.74%
資本金	58億9千5百万円（東証2部上場 証券コード：6946）
連結子会社	福島アビオニクス
売上高	連結 175億円 単独 175億円（2018年度）
従業員数	連結 817名 単独 721名（2018年度末現在）
拠点	本社：東京都品川区 事業所：横浜事業所、新横浜事業所

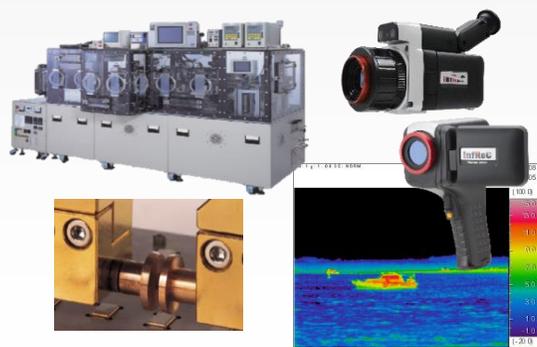
セグメントの概要

電子機器

売上高比率
2018年度実績
31%

接合機器 赤外線サーモグラフィ

- ・接合機器で“つける”ソリューションを提供
 - 水晶デバイスの封止
 - スマートフォン / エコカー部品の組立 etc.
- ・熱を可視化する“サーモグラフィ”
 - 電子部品・金型
 - 発電所・プラント監視 etc.



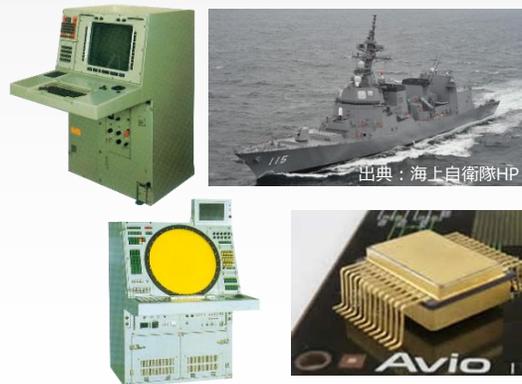
情報システム

売上高比率
2018年度実績
67%

防衛・宇宙向け情報システム製品

表示音響装置、誘導搭載装置、指揮統制装置、ハイブリッドIC

- ・防衛分野向けリアルタイム・耐環境製品
 - 護衛艦・潜水艦の情報表示装置
 - 指揮管制システム構成品
 - 陸・海・空の装備品搭載装置
- ・宇宙分野向け高信頼・高耐環境製品
 - JAXA認定ハイブリッドIC etc.



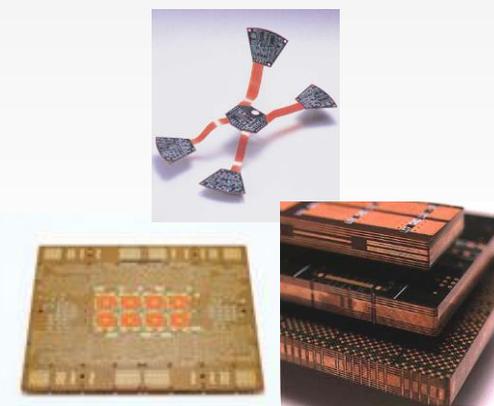
出典：海上自衛隊HP
<http://www.mod.go.jp/msdf/formal/gallery/ships/dd/akizuki/115.html>

プリント配線板

売上高比率
2018年度実績
2%

高多層基板 テストボード

- ・超高多層 高密度プリント配線板
 - 人工衛星等で使用
 - 半導体試験市場向けボード etc.



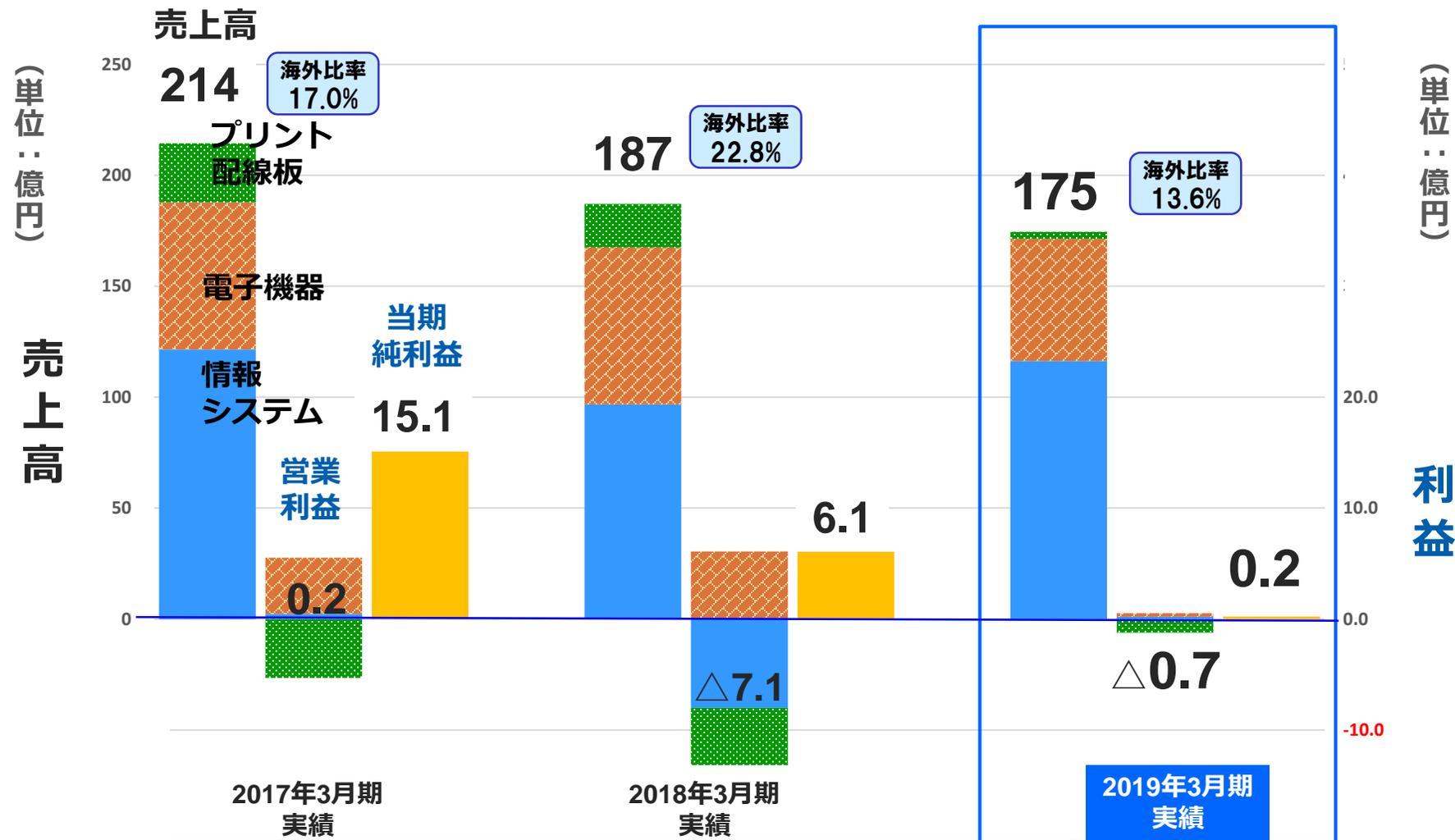
2019年3月期 業績サマリ

(単位：億円)

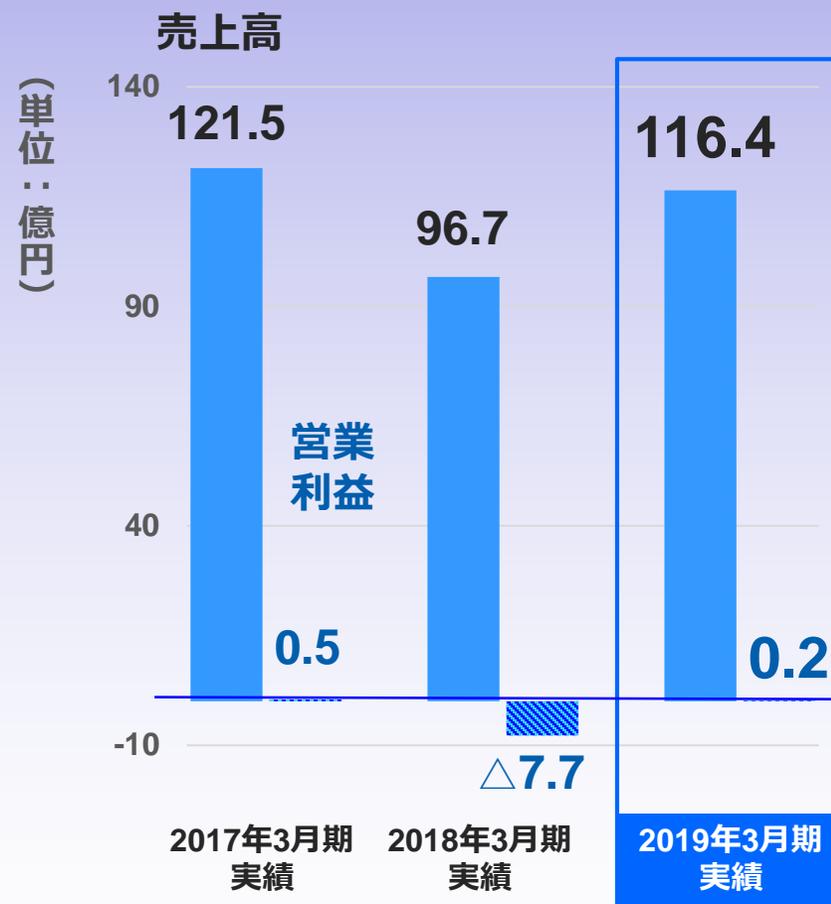
	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	増 減
売 上 高	187.1	174.6	△12.5
営 業 利 益	△ 7.1	△ 0.7	6.4
経 常 利 益	△ 7.6	△ 1.6	6.1
特 別 利 益	16.0	24.3	8.4
特 別 損 失	2.3	6.2	3.9
法 人 税 等	△ 0.1	16.4	16.4
当 期 純 利 益	6.1	0.2	△ 5.8
フリーキャッシュフロー-(FCF)	△ 18.6	26.1	44.6

2019年3月期 売上・損益概況

- プリント配線板の事業終息により、売上減少
- 継続2セグメントで増収増益、黒字確保



2019年3月期 決算 情報システム



売上

- 防衛省の国内調達が低調な中、艦艇搭載情報表示事業が伸び売上高増加

売上高

上期45.7億 (前年同期比 3%増)

下期70.7億 (前年同期比 35%増)

損益

- 上期は一部の不採算プロジェクトにより損失計上
- 下期は売上高の増加及びプロジェクト管理の強化により通期で黒字確保

情報システム トピックス

艦艇搭載情報表示事業の売上大幅増！

- ・主力製品である、艦艇搭載情報表示装置の契約増により業績大幅改善

- ⇒新造艦艇への搭載用
- ⇒旧型製品から最新型製品への更新・置換ほか
(COTS*リフレッシュ)
- ⇒陸上基地施設への設置用



出展：防衛省HP
艦艇搭載情報表示装置 イメージ



出展：防衛省HP



出展：防衛省HP



出展：防衛省HP

- ・次世代型 護衛艦向け情報表示装置の受注獲得
⇒艦艇搭載情報表示事業の基盤強化



出展：防衛省HP



売上

接合機器

- ・ 海外はスマートフォン市場の想定外の急減速、米中貿易摩擦の影響により中国向け中心に大幅減少
- ・ 国内は自動車部品市場向け増加

赤外線サーモグラフィ

- ・ ポータブル機器は景気不透明感に伴う商談先送り等により減少
- ・ 監視システム/特殊計測は需要増により増加

損益

- ・ 売上大幅減の中で黒字確保

接合機器 トピックス

アプリの水平展開で自動車部品市場攻略 電動化、自動化により変化する部品に顧客価値提案

- **車載モータ** モータ端子向けヒュージング
高性能電源による接合品質向上！ 抵抗溶接機NRW-IN400P
- **車載ハーネス** 異種材料のケーブルと端子の接続
独自センサによる溶着品質管理！ 超音波メタルウエルダ SW-3500-20



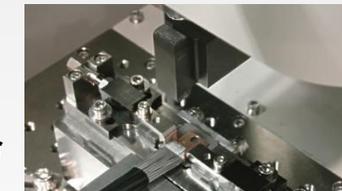
モータ端子ヒュージング接合

新製品投入で新たな顧客価値創造へ

超音波発振器 **AVIO独自のATHMOS制御で高速、安定溶着！**
ラインアップ強化（全5機種）で自動車市場を中心に様々な用途に提案



アルミハーネス・銅端子接合



出力(W) 周波数(KHz)
SW-D900Sシリーズ 3機種
SW-D600Sシリーズ 2機種

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 自動車 | : 内装品カシメ、フィルター溶断
電池セパレータフィルム切断 |
| 食品 | : フードカット、包装フィルム溶断 |
| 日用品 | : マスク溶断・溶着 |
| 電機 | : 樹脂製品カシメ ……など |

赤外線サーモグラフィ トピックス

Ⅰ 差別化製品による顧客価値提案

“巡回点検”から“常時監視”へ！ “ネットワーク型サーモ”

◇高解像度固定設置サーモ TS600

- ・製造ラインでの金型温度管理による品質管理（自動車）



“見る”から“予兆監視”へ！ “アルミ表面の温度計測”

◇金属温度計測サーモ TS300SW

測れなかったところが測れる！

- ・金属材料計測：焼き入れ工程時の温度ムラ管理（金属）



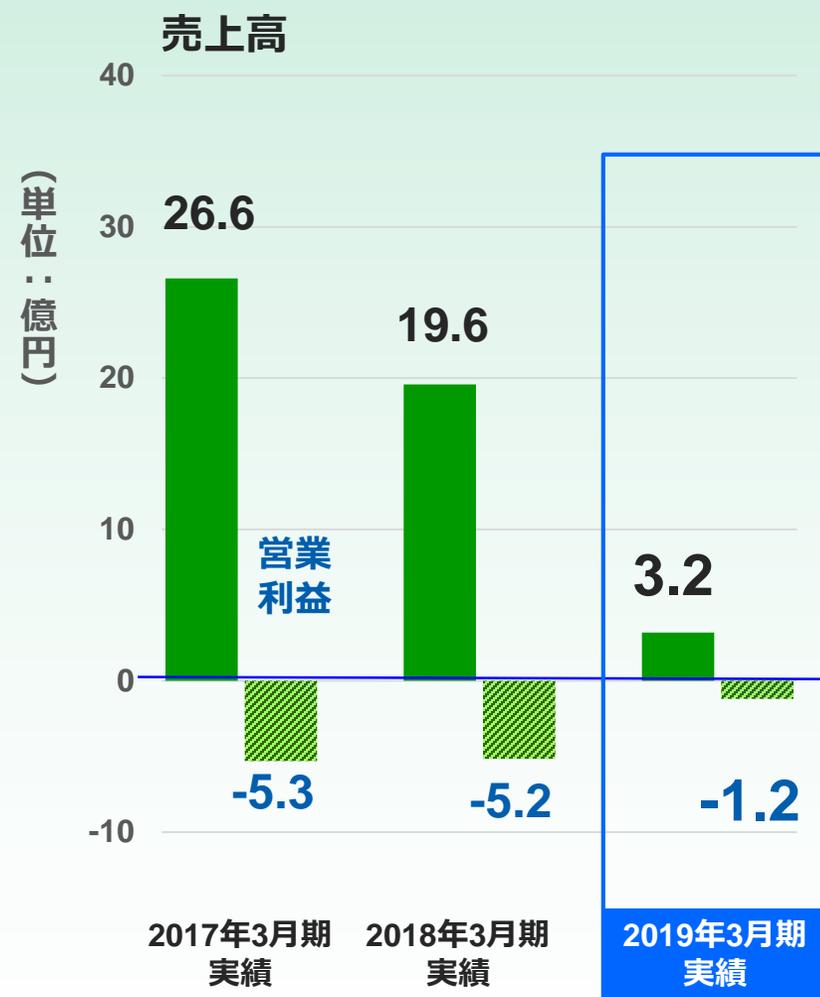
“見る”から“答えを出す”へ！ “微小温度差の測定”

◇高速・高精度計測サーモ H9000

- ・微小温度差計測：ロックインによる故障解析（半導体）



2019年3月期 決算 プリント配線板



- ・ 2016年7月に J R 東海リニア計画に伴い事業移管決定
- ・ 2018年3月に山梨アビオニクス※での生産停止
- ・ 2018年度第1四半期にお客様の検収が完了し事業終息

※ 2018年10月1日付で、当社は山梨アビオニクスを吸収合併

プリント配線板事業の終息後の進捗

① 旧山梨アビオニクスの建屋解体・更地化

- 建物解体、杭抜き、樹木・舗装の撤去完了
- J R東海による建物等の収去確認実施
- ・ 第3回補償金22.1億円入金完了

② J R東海への土地譲渡契約の締結

- リニア軌道部及び北側の土地をJ R東海へ譲渡
- ・ 譲渡面積：11,423m²、譲渡益：0.3億円

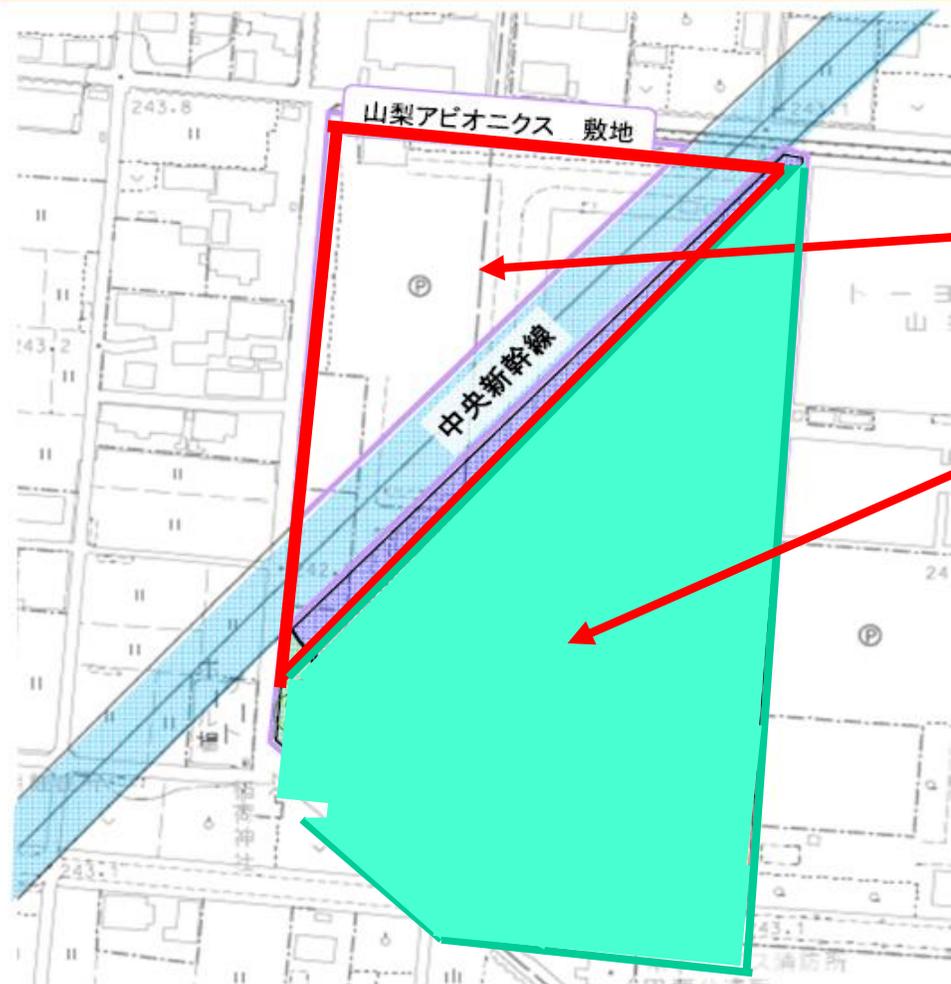
③ 残地補償契約の締結

- 変形残地に対する価格の減少に関する損失補償
- ・ 補償範囲：22,464m²、補償金額：1.8億円

2019年3月期特別利益に計上

(参考) 旧山梨アビオニクス敷地

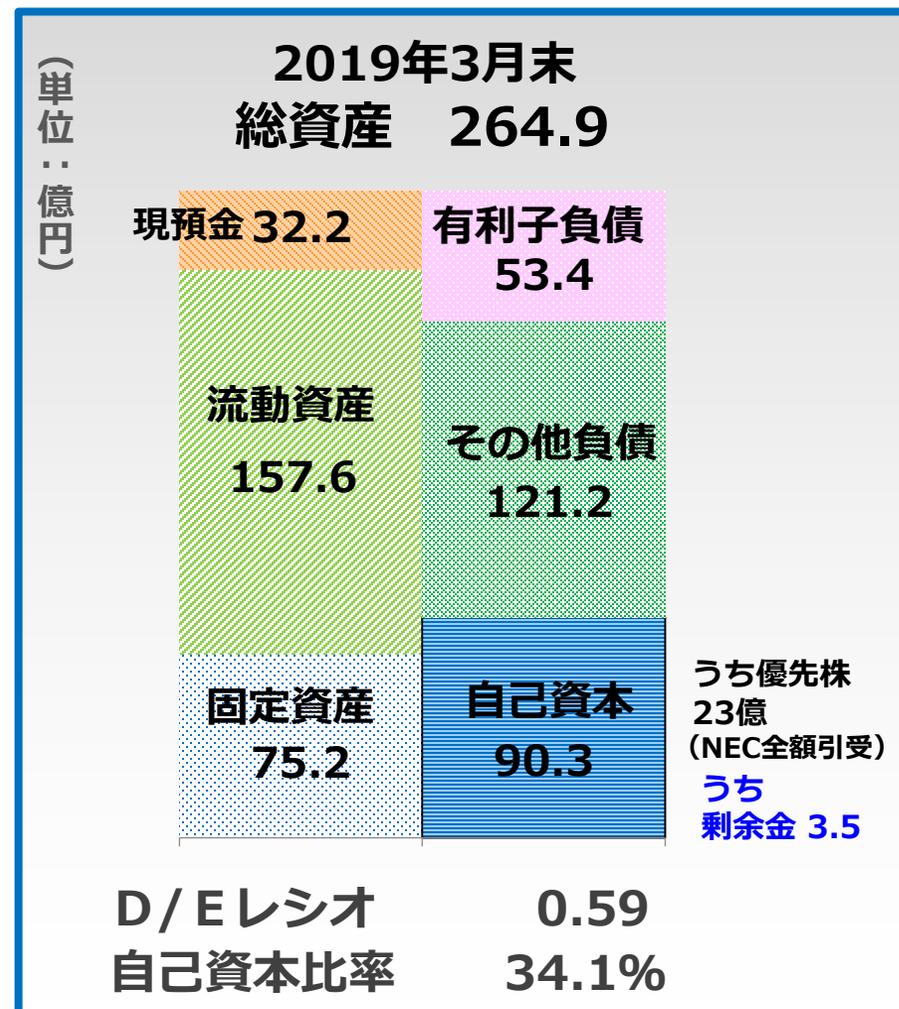
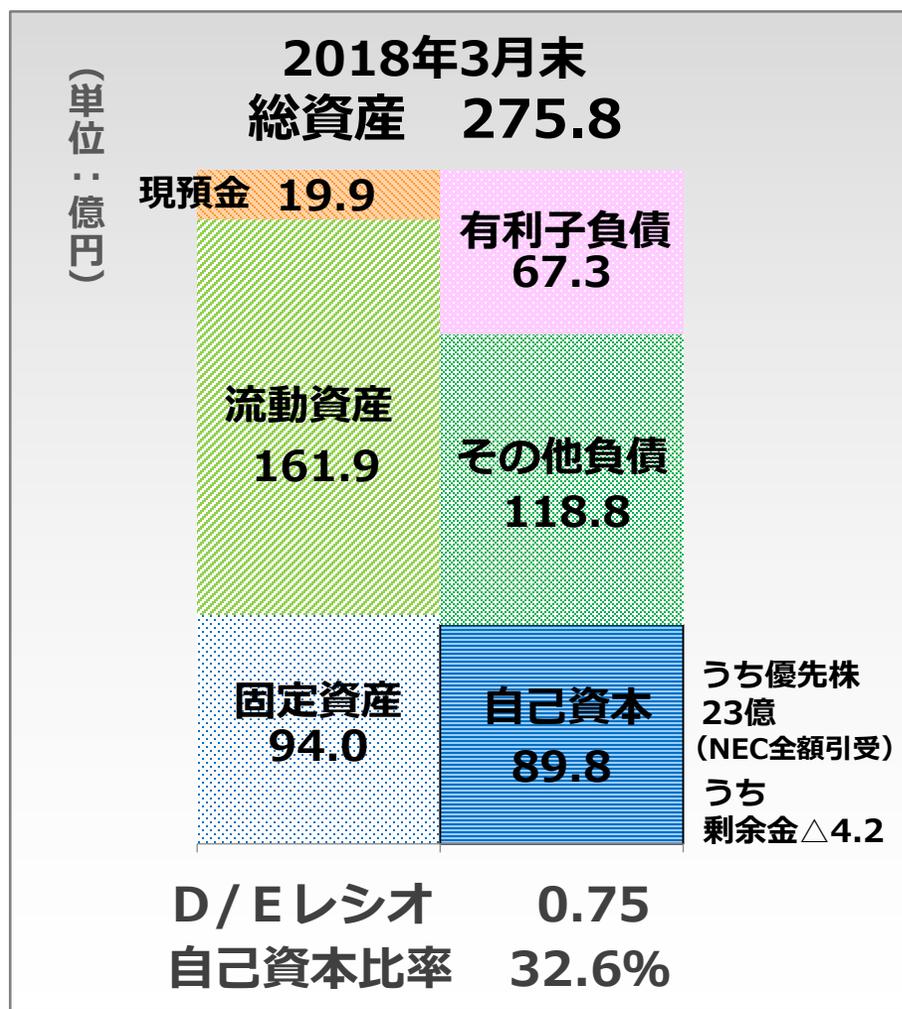
旧山梨アビオニクス敷地



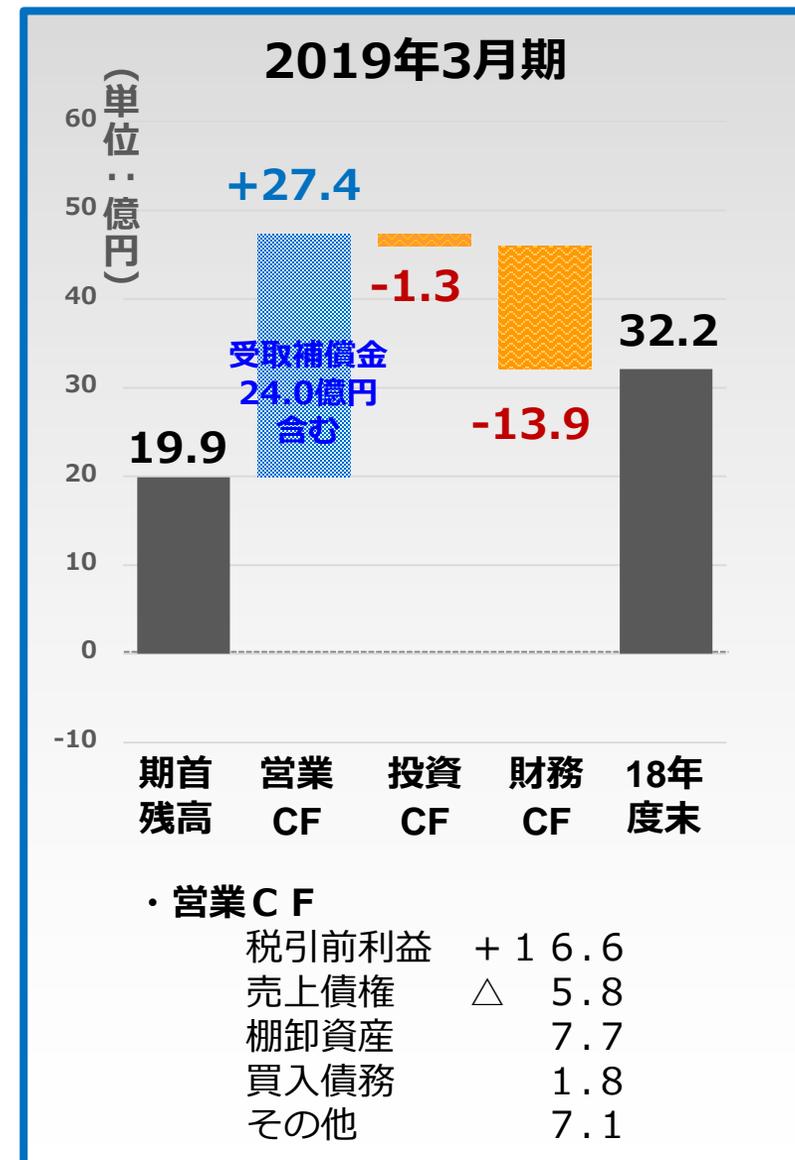
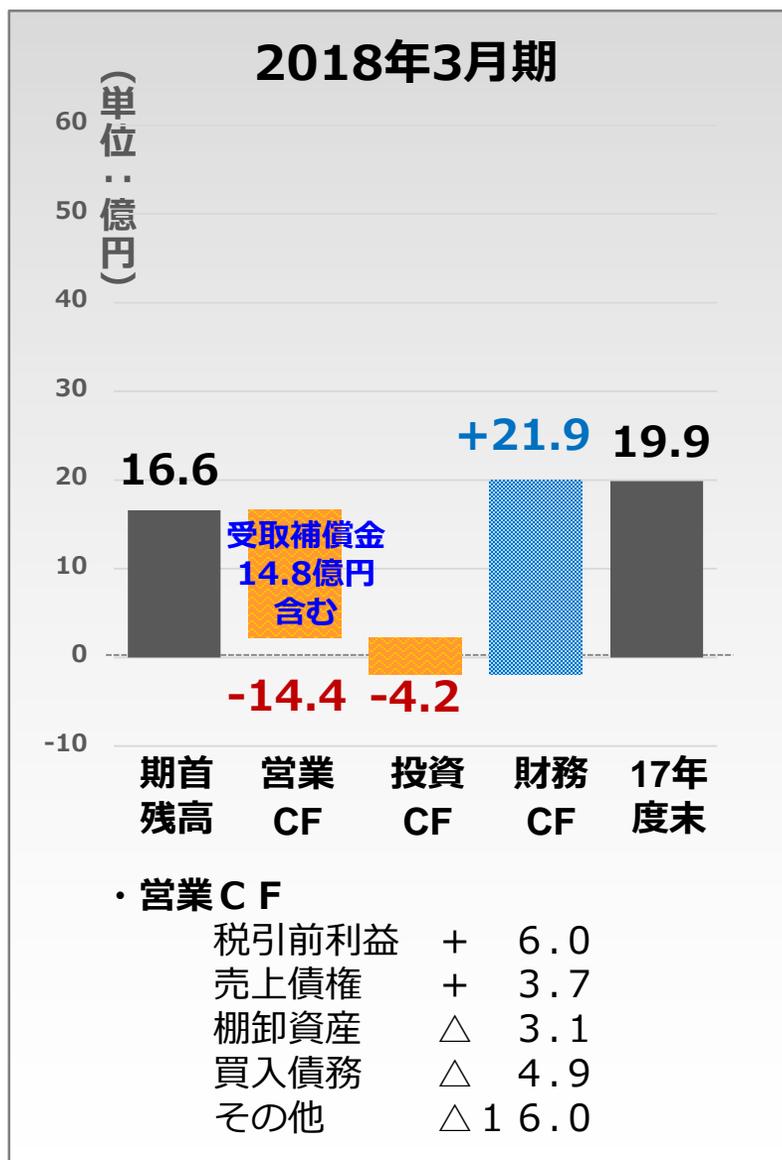
- JR東海に売却
→ 1.1万㎡
- 残地
→ 2.2万㎡

2019年3月期 決算 貸借対照表

- 剰余金が2011年3月期以来のプラスとなる
- 流動資産/固定資産を圧縮、有利子負債削減によりD/Eレシオが大幅改善



2019年3月期 決算 キャッシュ・フロー



1 . 2019年3月期決算

2 . 2020年3月期通期業績予想

3 . 中期経営計画の進捗状況

2020年3月期 遂行方針

- ① コンプライアンス（法令遵守）の徹底
- ② GP（売上総利益）拡大
- ③ マネジメント・ロス撲滅
- ④ 資産効率の向上によるキャッシュ・フローの改善
- ⑤ 働きやすい（働きがいのある）会社へ



復配に向けて

2020年3月期 連結業績予想サマリ

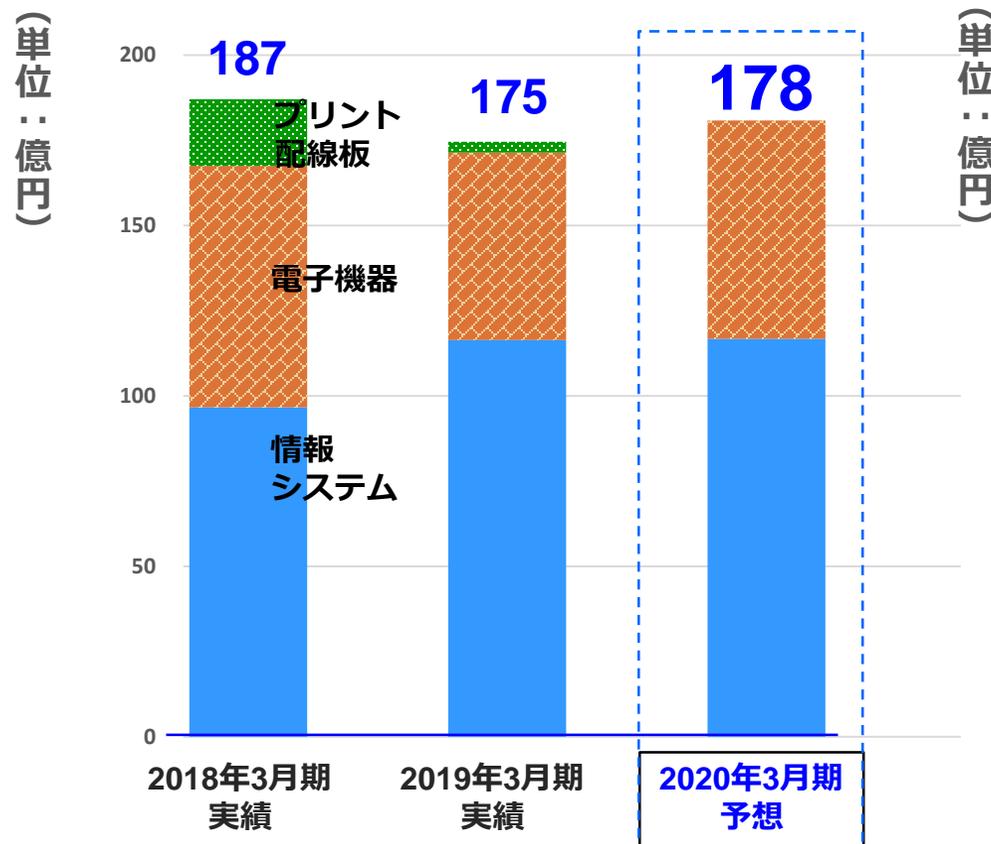
(単位：億円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 通期予想	増 減
売 上 高	174.6	178.0	3.4
営 業 利 益	△0.7	2.0	2.7
経 常 利 益	△1.6	1.5	3.1
当 期 純 利 益	0.2	1.0	0.8

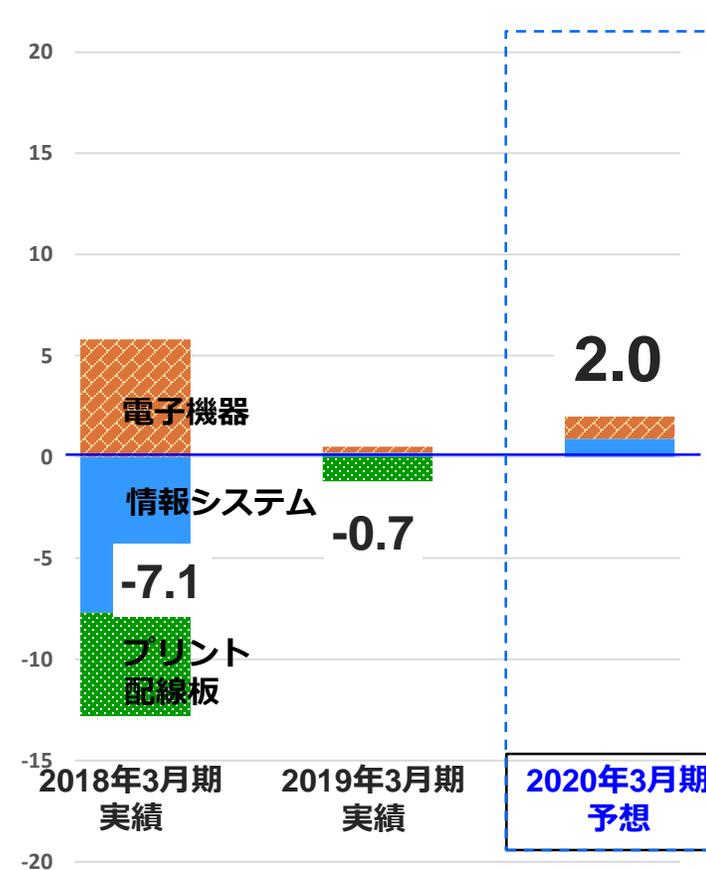
2020年3月期 業績予想 セグメント別

市場環境厳しい中でも、継続2セグメントの増収増益をはかる

売上高



営業利益



1 . 2019年3月期決算

2 . 2020年3月期通期業績予想

3 . 中期経営計画の進捗状況

“顧客価値経営の推進”

ニッチな領域での競争力強化・差別化を推進
2つのセグメントで成長を目指す

情報システム (防衛・宇宙)

- ・ 社会の安心安全に貢献
- ・ リアルタイム処理、耐環境の実績・ノウハウ
- ・ 全社の技術基盤

電子機器 (接合・赤外)

- ・ 接合4工法を活かした「つける」顧客価値
- ・ 「見えないものを見せる」顧客価値

2019年度の業績見通し及び

防衛市場、民需市場の事業環境の変化に鑑み、

連結財務ターゲットを見直すこととしております。

日本アビオニクスは次のステージへ

— 創立60周年となる2020年に向けて —

次のステージへ

Challenge For The Future

ステークホルダーの価値拡大

独自のエレクトロニクス技術と
システム技術により、
お客様のために新しい価値を創造し、
安全で豊かな社会の実現に貢献します。

安心・安全への貢献の拡大

- ・ 顧客の安心・安全
- ・ 株主の安心・安全
- ・ 従業員の安心・安全
- ・ 社会の安心・安全

補足

2014～18年度決算 ファクトデータ

連結損益計算書

セグメント情報

海外売上高、設備投資・減価償却費・研究開発費

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

主要指標

2014～18年度ファクトデータ（補足資料）

■ 連結損益計算書

（億円・％）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	256.9	229.2	214.4	187.1	174.6
売上原価	201.0	176.8	168.3	148.4	135.8
(原価率)	78.3%	77.1%	78.5%	79.3%	77.8%
売上総利益	55.8	52.4	46.1	38.7	38.8
(GP率)	21.7%	22.9%	21.5%	20.7%	22.2%
期間費用	51.0	46.6	45.9	45.8	39.5
(SGA比率)	19.8%	20.4%	21.4%	24.5%	22.6%
営業利益	4.8	5.7	0.2	-7.1	-0.7
営業外損益	0.5	0.9	0.8	0.6	0.9
経常利益	4.3	4.8	-0.6	-7.6	-1.6
(利益率)	1.7%	2.1%	-0.3%	-4.1%	-0.9%
特別利益	0.0	0.1	36.9	16.0	24.3
特別損失	4.0	0.4	17.8	2.3	6.2
税引前利益	0.3	4.5	18.6	6.0	16.6
法人税等	4.5	3.3	3.5	-0.1	16.4
当期純利益	-4.2	1.2	15.1	6.1	0.2
(利益率)	-1.6%	0.5%	7.0%	3.2%	0.1%

2014～18年度ファクトデータ（補足資料）

■セグメント情報

（億円・％）

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
情報システム	売上高	151.8	130.9	121.5	96.7	116.4
	営業利益	6.2	4.4	0.5	-7.7	0.2
	（利益率）	4.1%	3.4%	0.4%	-8.0%	0.2%
電子機器	売上高	72.5	67.6	66.3	70.8	55.0
	営業利益	0.1	3.2	5.1	5.8	0.3
	（利益率）	0.1%	4.8%	7.6%	8.2%	0.6%
プリント配線板	売上高	32.6	30.7	26.6	19.6	3.2
	営業利益	-1.4	-1.9	-5.3	-5.2	-1.2
	（利益率）	-4.4%	-6.2%	-20.0%	-26.4%	-38.1%
合計	売上高	256.9	229.2	214.4	187.1	174.6
	営業利益	4.8	5.7	0.2	-7.1	-0.7
	（利益率）	1.9%	2.5%	0.1%	-3.8%	-0.4%

2014～18年度ファクトデータ（補足資料）

■海外売上高

（億円・％）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
情報システム	0.8	0.3	0.1	0.1	1.3
電子機器	27.4	27.0	33.3	41.6	21.8
プリント配線板	2.7	2.8	3.1	0.9	0.6
合計	30.9	30.1	36.5	42.6	23.7
売上高比率	12.0%	13.1%	17.0%	22.8%	13.6%

■設備投資、減価償却費、研究開発費

（億円・％）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
設備投資	5.2	1.8	2.3	5.3	2.7
（売上高比率）	2.0%	0.8%	1.1%	2.9%	1.6%
減価償却費	6.2	4.5	4.7	6.6	3.9
研究開発費	3.7	3.5	4.4	3.8	3.1
（売上高比率）	1.5%	1.5%	2.1%	2.0%	1.8%

2014～18年度ファクトデータ（補足資料）

■連結貸借対照表

（億円）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
流動資産	198.8	185.6	185.3	181.9	189.7
固定資産	95.9	89.9	89.6	94.0	75.2
有形固定資産	62.9	60.1	58.3	55.8	46.7
無形固定資産	3.9	2.9	2.5	1.6	1.1
投資等	29.1	26.8	28.8	36.5	27.3
総資産	294.7	275.5	274.9	275.8	264.9
流動負債	111.0	112.1	115.6	100.1	96.0
固定負債	114.0	95.6	77.5	85.9	78.6
負債	225.0	207.7	193.1	186.0	174.6
資本金	59.0	59.0	59.0	59.0	59.0
資本剰余金	7.5	7.5	7.5	7.5	0.0
利益剰余金	-26.3	-25.4	-10.3	-4.2	3.5
その他	29.6	26.8	25.7	27.6	27.9
純資産	69.7	67.8	81.8	89.8	90.3
負債・資本	294.7	275.5	274.9	275.8	264.9

2014～18年度ファクトデータ（補足資料）

■連結キャッシュフロー計算書

（億円）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
税引前利益	0.3	4.5	18.6	6.0	16.6
減価償却費	6.2	4.5	4.7	6.6	3.9
売上債権増減	1.0	12.5	-0.4	3.7	-5.8
棚卸資産増減	4.8	-1.5	-0.9	-3.1	7.7
買入債務増減	-1.8	-6.4	3.9	-4.9	1.8
その他	2.2	-12.3	14.4	-22.6	3.1
営業C F	12.7	1.2	40.3	-14.4	27.4
設備投資	-5.3	-2.6	-4.1	-4.3	-2.7
その他	0.6	0.4	0.0	0.1	1.4
投資C F	-4.7	-2.3	-4.1	-4.2	-1.3
借入金増減	-8.9	-0.1	-41.1	21.9	-13.9
その他	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0	-0.0
財務C F	-8.9	-0.1	-41.1	21.9	-13.9
増減（合計）	-0.8	-1.1	-4.9	3.4	12.2
前期末	23.4	22.5	21.5	16.6	19.9
当期末	22.5	21.5	16.6	19.9	32.2

2014～18年度ファクトデータ（補足資料）

■主要指標

（億円・％）

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
総資産	294.7	275.5	274.9	275.8	264.9
純資産	69.7	67.8	81.8	89.8	90.3
自己資本比率	23.7%	24.6%	29.8%	32.6%	34.1%
有利子負債残高	86.5	86.4	45.3	67.3	53.4
D/Eレシオ	1.24	1.27	0.55	0.75	0.59
ネットD/Eレシオ	0.92	0.96	0.35	0.53	0.24
ROE	-6.6%	1.7%	20.2%	7.0%	0.2%
EBITDA	11.1	10.3	4.9	-0.5	3.2

< 将来予想に関する注意 >

本資料に記載されている業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断及び前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はその通りに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

その要因のうち、主なものは以下の通りであります。これらに限られるものではありません。

- ・ 需要動向等による影響
- ・ 日本電気株式会社との関係
- ・ 価格競争
- ・ 技術革新への対応
- ・ 災害等の影響
- ・ 退職給付債務 等

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を更新し、公表する義務を負うものではありません。



Avio

www.avio.co.jp